

若者たちのパーソナル・ネットワークと「趣味縁」： 2007YCRG 杉並調査の結果から

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2015-01-01 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 辻, 泉 メールアドレス: 所属:
URL	https://otsuma.repo.nii.ac.jp/records/6155

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



若者たちのパーソナル・ネットワークと「趣味縁」

— 2007YCRG 杉並調査の結果から —

Personal Network and Hobby Relationship of Japanese Youths — From a YCRG 2007 questionnaire survey in Suginami Ward —

辻 泉 *

Izumi TSUJI

<キーワード>

若者, 趣味縁, パーソナル・ネットワーク, 「消費行動型趣味」 「特定課題達成型趣味」

<要 約>

本論文の目的は、「趣味縁」と呼ばれる、若者たちの新たな人間関係のありようについて、2007年に杉並区の16～29歳の若者を対象に実施した、質問紙調査の結果を基にしながらその実態を把握することである。それが、どのような人間関係のありようであり、社会的属性などに基づいた違いが見られるのかどうか、あるいは、「趣味縁」の有無が当該の若者たちの人間関係の全体的なありようとどのように関連しているのか。これらの点について、パーソナル・ネットワークに関する項目の分析結果から検討する。

結論として、若者たちにとって「趣味縁」的な人間関係が、重要な位置づけを持っていることがあらためて確認された。もはやそれは「趣味にうつつをぬかす」といったような逸脱や逃避としてとらえるべきものではないことが明らかになったが、一方で、近年の議論が言うように、社会関係資本として期待しうるものなのかという点については、今後もさらに詳細にとらえていく必要があることが示唆された。なお具体的には、「ACG」や「スポーツ」などの「特定課題達成型」よりも、「旅行」や「消費」といった「消費行動型」の「趣味縁」において、人間関係全般のアクティブさやネットワークの「多重送信」性などが高いことがわかった。

* 大妻女子大学 人間関係学部 人間関係学科 社会学専攻 非常勤講師

1. 「趣味縁」とは何か？

本論文の目的は、若者たちにおける新たな人間関係のありようについて、質問紙調査の結果に基づいて、その実態を把握することである。ここでは、その新たな人間関係のありようを教育社会学者の藤田英典らの呼び方に倣って¹⁾、「趣味縁」と呼んでおくことにしたい。藤田は、これについて、以下のように述べている。

親族の凝集性は低下し、家族の規模は縮小し、地域の間関係は希薄になり、逆に、学校や職場に人間関係のウェイトが高まってきた。しかし、近年はさらに、学校や職場の間関係に新たな変化が起こっているように見受けられ、もう一方で、多様な趣味縁的な集団や人間関係のネットワークが拡大している²⁾。

つまり、「地縁」や「血縁」といった伝統的な人間関係に加え、それに変わって発達してきた「社縁」(学校や職場における人間関係)をも乗り越えるような、趣味を媒介にした新たな人間関係のありようが、情報化の進展に伴って見られるようになってきたというのである。これこそが、本論文が注目する「趣味縁」に他ならない。

では具体的にそれは、どのような人間関係のありようなのだろうか。そこには社会的属性などに基づいた違いが見られるのだろうか。あるいは、「趣味縁」の有無は当該の若者たちの人間関係の全体的なありようとどのように関連しているのだろうか。本論文では、若者たちのパーソナル・ネットワークの実態を概観しつつ、その中から「趣味縁」と呼ぶものの実態を明らかにしていく。

2. 関連する先行研究の検討

こうした既存の「枠」を越え出ようような人間関係のありようは、近年においては、逸脱や逃避としてというより、むしろ肯定的に論じられることも多い。例えば、社会関係資本論と呼ばれる議論はその代表だろう³⁾。パットナムも『哲学する民

主義』の中で、いわゆる二次的結社の典型例として、趣味を媒介とする組織(サッカークラブ、合唱団など)を取り上げている⁴⁾。だが、主に欧米を中心としたこれらの議論と比べ、日本における実態の詳細な把握は、まだ十分になされていない段階にある。

日本社会において、こうした「趣味縁」的な人間関係のありようを肯定的に評価しようとする議論としては、主に社会教育学者たちを中心とする、いわゆる「居場所論」をあげることが出来るだろう⁵⁾。あるいはほぼ同じ文脈で、それを「第4空間」と呼び表した社会学者たちもいた⁶⁾。しかしながらこれらの議論もまた、やや理念が先行し、十二分にその詳細な実態が把握されているとは言いがたい。

関連して、「趣味縁」の実態把握が十分になされていない理由として、方法論的な困難を指摘できるだろう。例えば過去になされた類似の研究の例として、サークル研究をあげることが出来るが⁷⁾、こうしたサークル研究が対象としたのは、活動的や、会員とそれ以外との区別などが明確な、いわゆる「集団」としての特質をそなえたサークルであった。そのため、むしろ近年にいたるにつれて、こうしたサークルの消失を主張せざるを得なくなってしまう⁸⁾。だが必ずしも「趣味縁」は「集団」のようなありようをしているわけではないだろう。

他にも同じような問題関心を共有する研究として、英米圏のカルチュラル・スタディーズにおける、いわゆる「ポスト・サブカルチュラルターン」と呼ばれる現象の広まりを指摘できよう。いわば、確固たる「サブカルチャー集団」への所属とそれに基づいたアイデンティティ形成という観点よりも、もっと緩やかに実態の変容をとらえようとする観点への変化であり⁹⁾、フランス社会においてもマフェゾリなどが関心を同じくするような指摘をしている¹⁰⁾。

3. 調査の概要・分析方法

(1) 調査の概要

本論文で用いるデータは、2007年9月に東京都杉並区において、青少年研究会 (<http://jysg.jp/>) の有志にあたる、青年文化研究会 (YCRG) が実施した量的調査によって得られたものである。調査対象は、東京都杉並区在住の16～29歳の男女で、層化二段無作為抽出法によって抽出を行い、有効サンプル数は719人、回収率は40%であった(訪問留め置き法)。また回答者の性別は、45.8%が男性、54.2%が女性であり、平均年齢は23.0歳であった。

本論文が主に用いるのは、回答者自身のパーソナル・ネットワークに関する質問項目である。具体的には、「現在、あなたが特に親しくしている友だちや、先輩・後輩、恋人などを、3人まで思い浮かべてください(ただし、一緒に住んでいる家族は除きます)」という質問によって重要な他者を挙げてもらい(以下、A～Cと呼ぶ)、それぞれについて、基本属性(性別や年齢)、知り合った場所、コミュニケーションの頻度、一緒にすること(共時行動)、その人に対して感じる事柄(主観的意味、社会化機能)などを尋ねていくというものである。

その他にも分析に当たっては、パーソナル・ネットワークの全体的な規模を把握するための「親友(性別ごとの人数)」「仲のよい友だち」「知り合い程度の友だち」の人数を把握する項目や、生活満足度、コミュニケーションスキル、一般的信頼、政治参加経験に関する項目なども適宜参照した。

(2) 用いる質問項目

具体的な質問項目については、主に、パーソナル・ネットワークの<「形式的」な側面に関わる項目>、<「内容的」な側面に関わる項目>、<ネットワークの影響に関わる項目>、<その他の集団所属に関わる項目>に分かれており、詳細は以降の分析結果で記すが、概略は以下のとおりである。

<「形式的」な側面に関わる項目>

- 1) ネットワーク規模(人数など)
- 2) ネットワーク構成員属性(性別、年齢など)
- 3) 知り合った場所(MA = 複数回答、その多様度¹¹⁾や、個別の場所など)

- 4) ネットワーク構造(密度¹²⁾)

<「内容的」な側面に関わる項目>

- 1) コミュニケーション頻度(直接接触、メディア経由など)
- 2) 共時行動(MA, その個数、個別の内容など)
- 3) 主観的意味¹³⁾(MA, その多様度¹⁴⁾、個別の内容など)
- 4) 社会化機能(MA, その多様度¹⁵⁾、個別の内容など)

<ネットワークの影響に関わる項目>

- 1) 日常生活や集団への満足度
- 2) コミュニケーションスキル¹⁶⁾(個数、個別の内容など)
- 3) 一般的信頼
- 4) 政治参加経験(その個数)

<その他の集団所属に関わる項目>

- 1) 団体加入状況(MA)
- 2) つき合いを大切に相手(MA)

(3) 分析方法

分析においては、主に平均値の比較を行い、分析結果について統計的な検定を行った。なお検定結果については、図表中に、以下のようにアスタリスクを用いて有意水準を表記した。すなわち、*** = 0.1%水準で有意($\alpha < .001$)、** = 1%水準で有意($\alpha < .010$)、* = 5%水準で有意($\alpha < .050$)、※ = 10%水準で有意($\alpha < .100$)である。また平均値の差の検定においては、極端に大きい値を除外したり、あるいは χ^2 乗検定においても、セルの期待値が5以下になるのを防ぐために、適宜カテゴリーの統合を行ったり無回答は除いたりといった工夫を行った。

さらに本論文で「趣味縁」の実態を把握するに当たっては、以下のような分析方法を用いた。まず社会学者の浅野智彦の「趣味縁」に関する定義¹⁷⁾の中での、「趣味集団」と「趣味友人」という下位分類で言うならば後者に注目し、特にパーソナル・ネットワークに関する質問項目からそれをと

らえようとした。

すなわち(A)～(C)の重要な他者3人について、共時行動における「趣味や娯楽を一緒にする」という項目に全員が当てはまる場合と、全員が当てはまらない場合について、前者を「趣味縁的ネットワーク有」、後者を「趣味縁的ネットワーク無」として区別し、それぞれの特徴を把握した。こうした分析方法をとる理由として、結論を先取りすれば、「趣味縁」的な人間関係が必ずしも明確な集団所属の形をとるとは限らないということ、それゆえに、ここでは当事者たちのパーソナル・ネットワークを把握する中で、その中から「趣味縁」的なものを抽出するという方法を採用したということがあげられる。

4. 知見・考察

(1) パーソナル・ネットワークの実態

表1-1から若者たちのパーソナル・ネットワークの実態を概観すると、平均人数で言えば「親友」が4.06人、「仲のよい友だち」が15.43人、「知り合い程度の友だち」が47.27人であり、比較的人数の多い様子がうかがえる。だが、さらに実態を掘り下げていくと、同質性の高さという特徴が浮かび上がってこよう。異性や異年齢の比率は決して高くはなく(0.19と0.30)、また知り合った場所についても「学校」が圧倒的に多く(0.59)、さらに主観的意味においても「好感・親密感」にあたる項目の割合が特に高いという傾向が見られる(「一緒にいると楽しい」が0.85、「親しみを感じる」が0.79)。

これを男女別に見ると、同じく表1-1では、男性のほうが「親友」の人数が多く(男性4.54人>女性3.66人、以下同様)、「ネットワーク密度」が高い一方で(0.58>0.51)、女性のほうが異性の比率や(0.17<0.21)、知り合った場所、共時行動、主観的意味や社会化機能の多様度が高くなっている(それぞれ、0.21<0.27、2.02<2.23、1.61<1.83、1.33<1.75)。

また表記はしていないが、年齢層別にみると、若い年齢層のほうがおおむね友人の人数が多いが

(親友の人数の合計、16～19歳4.62人：20～24歳4.02人：25～29歳3.78人、以下同様)、逆に異性や異年齢の比率は低い(前者は0.12：0.23：0.21、後者は0.14：0.30：0.38)。加えて「ネットワーク密度」も高いのだが(0.62：0.54：0.50)、これらは若い年齢層のほうが知り合った場所の多様度が低く(0.11：0.23：0.33)、特に「学校」などに限られていることからして、就業の有無による影響が大きいものと考えられよう。

その一方で、重要な他者との「共時行動」についてみると、最も割合が高かったのが「趣味や娯楽を一緒にする」ことであった(全体で約7割が該当)。この点については、基本属性との関連も見られなかった。このように若者たちの多くは趣味を持っており、かつそれを友人とともにすることが多いのだが、一方で表1-2を見ると「趣味に関するサークル・団体」への加入率は全体的に低く、そもそも「特に団体などには入っていない」と答える若者たちが7割を超えている。こうした「共時行動」の実態を通して見えてくるのは、「趣味縁」というものが、明確な「集団」への所属という形をとるよりも、むしろ当事者たちのパーソナル・ネットワークの内部に位置づけられることの方が多いうことであろう(この点は、知り合った場所として、「学校」などの「社縁」的なものが多く挙げられていたことから明らかであろう)。

(2) 「趣味縁」の概要

次に、本論文において「趣味縁」の実態を把握するに当たっては、以下のような分析方法を用いた。先ほどと同様に、「現在、あなたが特に親しくしている友だちや、先輩・後輩、恋人などを、3人まで思い浮かべてください(ただし、一緒に住んでいる家族は除きます)」という質問によって3人まで挙げられた重要な他者に関して、共時行動における「④趣味や娯楽を一緒にする」という項目に全員が当てはまる場合と、全員が当てはまらない場合について、比較検討をすることにした¹⁸⁾。この場合、前者を「趣味縁的ネットワーク有」、後者を「趣味縁的ネットワーク無」と呼ぶことにする。そして主に両者の間での平均値の差

表1-1 全体及び男女別ネットワーク特性

	合計		男性		女性		男女の有意差			
	n	平均値	標準偏差	n	平均値	標準偏差		n	平均値	標準偏差
<「形式的」な側面に関する項目>										
(1) ネットワーク規模										
Q6.1①親友の数(合計)	694	4.06	3.60	314	4.54	4.19	380	3.66	2.97	**
Q6.1①親友の数(男)	679	2.01	2.90	305	3.81	3.34	374	0.54	1.19	***
Q6.1①親友の数(女)	683	2.05	2.36	305	0.71	1.58	378	3.13	2.34	***
Q6.2②仲のよい友だちの数	686	15.43	15.95	309	15.86	16.26	377	15.08	15.70	
Q6.3③知り合い程度の友だちの数	656	47.27	63.82	299	50.87	70.68	357	44.26	57.38	
Q7.0特に親しくしている人(0~3人)	700	2.93	0.29	315	2.91	0.33	385	2.95	0.25	※
(2) ネットワーク構成員属性										
(A)~(C)男性比率	696	0.49	0.39	313	0.83	0.24	383	0.21	0.25	***
(A)~(C)異性比率	696	0.19	0.24	313	0.17	0.24	383	0.21	0.25	*
(A)~(C)異年齢比率	696	0.30	0.33	312	0.30	0.35	384	0.30	0.32	
(A)~(C)恋人が含まれる比率	700	0.27	0.44	315	0.20	0.40	385	0.32	0.47	***
※Q10現在恋愛中の比率	706	0.43	0.49	323	0.37	0.48	383	0.47	0.50	**
※Q10恋愛経験の比率	706	0.73	0.44	323	0.72	0.45	383	0.74	0.44	
※Q10SQ1交際した恋人の人数	686	2.71	3.17	313	2.75	3.31	373	2.67	3.06	
(3) 知り合った場所										
(A)~(C)知り合った場所の多様度(比率)	674	0.24	0.27	300	0.21	0.27	374	0.27	0.27	**
(A)~(C)①学校で(比率)	686	0.59	0.37	306	0.58	0.38	380	0.60	0.36	
(A)~(C)②学校の部活やサークル活動で(比率)	686	0.09	0.22	306	0.11	0.26	380	0.07	0.19	*
(A)~(C)③塾や予備校で(比率)	686	0.02	0.09	306	0.02	0.10	380	0.02	0.09	
(A)~(C)④職場で(アルバイト先を除く)(比率)	686	0.10	0.23	306	0.10	0.24	380	0.11	0.23	
(A)~(C)⑤職場のサークル活動で(比率)	686	0.00	0.04	306	0.00	0.03	380	0.01	0.05	
(A)~(C)⑥学校や職場以外のならいごとやサークル活動で(比率)	686	0.02	0.11	306	0.03	0.14	380	0.01	0.08	※
(A)~(C)⑦アルバイト先で(比率)	686	0.05	0.16	306	0.06	0.17	380	0.05	0.16	
(A)~(C)⑧親戚つきあいで(比率)	686	0.00	0.03	306	0.00	0.02	380	0.00	0.04	
(A)~(C)⑨近所つきあいで(比率)	686	0.02	0.09	306	0.01	0.09	380	0.02	0.09	
(A)~(C)⑩街で(ディスコ・クラブ・ゲームセンターなど)(比率)	686	0.01	0.06	306	0.00	0.04	380	0.01	0.08	
(A)~(C)⑪インターネットや携帯電話のサイトで(比率)	686	0.01	0.08	306	0.02	0.11	380	0.01	0.05	※
(A)~(C)⑫その他(比率)	686	0.07	0.19	306	0.06	0.19	380	0.08	0.19	
(4) ネットワーク構造										
ネットワーク密度(比率)	683	0.54	0.36	305	0.58	0.37	378	0.51	0.36	*
<「内容的」な側面に関する項目>										
(1) コミュニケーション頻度										
(A)~(C)直接会う頻度(平均得点)	687	2.34	0.92	307	2.46	0.94	380	2.24	0.88	**
(A)~(C)電話やメールの頻度(平均得点)	689	2.55	0.87	307	2.58	0.92	382	2.53	0.83	
(2) 共時行動										
(A)~(C)共時行動の個数(0~4)	700	2.13	1.16	315	2.02	1.21	385	2.23	1.11	*
(A)~(C)①政治や社会の会話(比率)	700	0.22	0.36	315	0.23	0.37	385	0.21	0.35	
(A)~(C)②金銭やものの貸借(比率)	700	0.19	0.35	315	0.21	0.37	385	0.18	0.33	
(A)~(C)③悩みの相談(比率)	700	0.56	0.42	315	0.44	0.42	385	0.66	0.39	***
(A)~(C)④趣味や娯楽と一緒にする(比率)	700	0.67	0.40	315	0.66	0.41	385	0.67	0.39	
(3) 主観的意味										
(A)~(C)主観的意味の多様度(0~3)	700	1.73	0.65	315	1.61	0.67	385	1.83	0.61	***
(A)~(C)①一緒にいると楽しい(好感・親密感①:比率)	700	0.85	0.30	315	0.81	0.34	385	0.88	0.27	**
(A)~(C)②親しみを感じる(好感・親密感②:比率)	700	0.79	0.35	315	0.73	0.39	385	0.84	0.31	***
(A)~(C)③尊敬している(尊敬・肯定的評価①:比率)	700	0.39	0.40	315	0.30	0.38	385	0.46	0.40	***
(A)~(C)④自分の弱みをさらけ出せる(尊敬・肯定的評価②:比率)	700	0.48	0.41	315	0.40	0.41	385	0.55	0.39	***
(A)~(C)④ライバルだと思う(劣等感・競争意識①:比率)	700	0.16	0.28	315	0.16	0.28	385	0.15	0.27	
(A)~(C)⑤劣等感を感じる(劣等感・競争意識②:比率)	700	0.07	0.20	315	0.06	0.18	385	0.08	0.21	
(4) 社会化機能										
(A)~(C)社会化機能の多様度(0~3)	700	1.56	0.84	315	1.33	0.85	385	1.75	0.78	***
(A)~(C)⑥一緒にいると安心する(心理的安定化:比率)	700	0.60	0.41	315	0.50	0.44	385	0.68	0.36	***
(A)~(C)⑦真剣に話が出る(社会的スキル①:比率)	700	0.64	0.40	315	0.56	0.42	385	0.70	0.37	***
(A)~(C)⑧その人のおかげで友達つきあいがうまくなった(社会的スキル②:比率)	700	0.19	0.30	315	0.18	0.31	385	0.20	0.30	
(A)~(C)⑩ケンカをしても仲直りできる(社会的スキル③:比率)	700	0.52	0.44	315	0.46	0.44	385	0.57	0.42	**
(A)~(C)⑪その人のような生き方や考え方をしてみたい:(モデル:比率)	700	0.21	0.32	315	0.15	0.30	385	0.26	0.33	***

表1-2 全体及び男女別その他の特性

	合計			男性		女性		男女の 有意差	
	n	平均値	標準偏差	n	平均値	標準偏差	n		平均値
<ネットワークの影響に関わる項目>									
(1)生活や集団満足度									
Q39生活満足度(平均得点)	706	2.74	0.72	325	2.74	0.72	381	2.73	0.71
F3①父親との関係満足度(平均得点)	674	3.18	0.89	307	3.18	0.88	367	3.18	0.91
F3②母親との関係満足度(平均得点)	698	3.39	0.80	316	3.34	0.83	382	3.43	0.76
Q8友だち(恋人を含む)との満足度(平均得点)	704	3.46	0.70	321	3.45	0.69	383	3.46	0.71
F9職場の満足度(平均得点)	412	2.54	0.85	177	2.43	0.87	235	2.63	0.83 **
F10学校の満足度(平均得点)	262	2.88	0.87	133	2.81	0.82	129	2.95	0.91
Q14居住地地域愛着度(平均得点)	718	3.20	0.99	329	3.20	1.02	389	3.21	0.97
(2)コミュニケーションスキル									
~6)	715	3.49	1.53	327	3.48	1.60	388	3.50	1.47
Q32①誰でもすぐ仲良くなれる(平均得点)	714	2.68	0.82	326	2.65	0.80	388	2.70	0.83
Q32②表情やしぐさで相手の思っていることがわかる(平均得点)	712	2.89	0.74	325	2.87	0.75	387	2.91	0.73
Q32③人の話の内容が間違いだと思ったときには、自分の考えを述べるようにしている(平均得点)	712	2.69	0.77	325	2.71	0.78	387	2.66	0.76
Q32④気持ちをおさえようとしても、それが顔に表れてしまう(平均得点)	713	2.75	0.89	325	2.65	0.86	388	2.84	0.92 **
Q32⑤まわりの人たちとのあいだでトラブルが起きても、それを上手に処理できる(平均得点)	709	2.56	0.74	324	2.62	0.79	385	2.51	0.69 *
Q32⑥感情を素直にあらわさせる(平均得点)	712	2.82	0.86	324	2.79	0.85	388	2.84	0.87
(3)一般的信頼									
Q35①ほとんどの人は信頼できる(平均得点)	716	1.32	1.33	329	2.27	0.81	387	2.33	0.80
(4)政治参加経験									
Q21.1~Q21.7 政治参加経験の個数(0~7)	714	1.32	1.33	326	1.26	1.37	388	1.36	1.29
<その他の集団所属に関わる項目>									
(1)団体加入状況									
Q3.1~Q3.10 何らかの団体への加入(比率)	703	0.28	0.45	322	0.34	0.48	381	0.22	0.42 ***
1. 地域のサークルや団体など(加入比率)	703	0.03	0.17	322	0.04	0.20	381	0.02	0.14
2. 全国的な青少年団体など(加入比率)	703	0.01	0.08	322	0.01	0.10	381	0.00	0.05
3. 労働組合(加入比率)	703	0.02	0.15	322	0.02	0.16	381	0.02	0.15
4. 生協・消費者団体(加入比率)	703	0.01	0.10	322	0.00	0.06	381	0.02	0.12 ※
5. 政治団体(政党や後援会など)(加入比率)	703	0.00	0.05	322	0.01	0.08	381	0.00	0.00
6. 宗教にかかわる団体(加入比率)	703	0.03	0.16	322	0.03	0.18	381	0.02	0.14
7. 職場のサークルやクラブなど(加入比率)	703	0.04	0.20	322	0.06	0.24	381	0.02	0.15 **
8. 趣味に関するサークルや団体(加入比率)	703	0.14	0.34	322	0.18	0.39	381	0.10	0.30 **
9. インターネット上の集まり(加入比率)	703	0.06	0.24	322	0.07	0.25	381	0.06	0.23
10. その他の団体(加入比率)	703	0.03	0.18	322	0.03	0.18	381	0.03	0.17
11. 特に団体などには入っていない(比率)	703	0.72	0.45	322	0.66	0.47	381	0.78	0.42 **
(2)つき合いを大切にする相手									
1. 父親(比率)	707	0.52	0.50	321	0.51	0.50	386	0.53	0.50
2. 母親(比率)	707	0.65	0.48	321	0.58	0.49	386	0.70	0.46 **
3. きょうだい(比率)	707	0.45	0.50	321	0.41	0.49	386	0.47	0.50 ※
4. 配偶者(比率)	707	0.07	0.26	321	0.06	0.24	386	0.08	0.27
5. 祖父母または親類(比率)	707	0.20	0.40	321	0.15	0.36	386	0.24	0.43 **
6. 恋人(比率)	707	0.40	0.49	321	0.35	0.48	386	0.44	0.50 *
7. 学校の先生(比率)	707	0.08	0.27	321	0.09	0.29	386	0.07	0.25
8. 近所や学校の友だち(比率)	707	0.50	0.50	321	0.51	0.50	386	0.49	0.50
9. 学校の先輩(比率)	707	0.12	0.32	321	0.15	0.36	386	0.09	0.29 *
10. 職場の上司(比率)	707	0.19	0.39	321	0.19	0.39	386	0.19	0.39
11. 職場の同僚(比率)	707	0.37	0.48	321	0.35	0.48	386	0.40	0.49
12. 団体・グループなどの仲間(比率)	707	0.17	0.38	321	0.20	0.40	386	0.15	0.36 ※
13. その他(比率)	707	0.07	0.25	321	0.04	0.19	386	0.09	0.29
つき合いを大切にする相手の個数(1~13)	702	3.74	1.93	318	3.55	2.05	384	3.91	1.81 *

表2-1 「趣味縁的ネットワーク」の有無とネットワーク特性

	趣味ネットワーク有			趣味ネットワーク無			有意差
	n	平均値	標準偏差	n	平均値	標準偏差	
<「形式的」な側面に関する項目>							
(1) ネットワーク規模							
Q6.1①親友の数(合計)	352	4.51	4.09	129	3.36	2.95	**
Q6.1①親友の数(男)	343	2.27	3.43	127	1.77	2.39	
Q6.1①親友の数(女)	347	2.24	2.43	127	1.57	2.01	**
Q6.2②仲のよい友だちの数	346	16.07	16.72	128	12.85	13.93	*
Q6.3③知り合い程度の友だちの数	330	52.93	67.60	120	34.61	43.84	**
Q7.0特に親しくしている人(0~3人)	364	2.93	0.31	134	2.92	0.33	
(2) ネットワーク構成員属性							
(A)~(C)男性比率	362	0.49	0.40	133	0.53	0.42	
(A)~(C)異性比率	362	0.18	0.24	133	0.17	0.26	
(A)~(C)異年齢比率	363	0.29	0.34	131	0.31	0.34	
(A)~(C)恋人が含まれる比率	364	0.28	0.45	134	0.19	0.39	*
※Q10現在恋愛中の比率	361	0.47	0.50	126	0.26	0.44	***
※Q10恋愛経験の比率	361	0.78	0.42	126	0.56	0.50	***
※Q10SQ1交際した恋人の人数	354	2.98	3.29	122	1.67	2.50	***
(3) 知り合った場所							
(A)~(C)知り合った場所の多様度(比率)	355	0.22	0.26	123	0.24	0.27	
(A)~(C)①学校で(比率)	361	0.61	0.38	125	0.59	0.39	
(A)~(C)②学校の部活やサークル活動で(比率)	361	0.10	0.24	125	0.07	0.22	
(A)~(C)③塾や予備校で(比率)	361	0.02	0.09	125	0.01	0.07	
(A)~(C)④職場で(アルバイト先を除く)(比率)	361	0.09	0.22	125	0.13	0.28	※
(A)~(C)⑤職場のサークル活動で(比率)	361	0.01	0.04	125	0.00	0.03	
(A)~(C)⑥学校や職場以外のならいごとやサークル活動で(比率)	361	0.02	0.12	125	0.02	0.10	
(A)~(C)⑦アルバイト先で(比率)	361	0.05	0.14	125	0.06	0.17	
(A)~(C)⑧親戚づきあい(比率)	361	0.00	0.02	125	0.00	0.03	
(A)~(C)⑨近所づきあい(比率)	361	0.01	0.07	125	0.01	0.07	
(A)~(C)⑩街で(ディスコ・クラブ・ゲームセンターなど)(比率)	361	0.01	0.08	125	0.01	0.04	
(A)~(C)⑪インターネットや携帯電話のサイトで(比率)	361	0.01	0.07	125	0.01	0.07	
(A)~(C)⑫その他(比率)	361	0.08	0.20	125	0.08	0.22	
(4) ネットワーク構造							
ネットワーク密度(比率)	355	0.61	0.37	129	0.53	0.37	*
<「内容的」な側面に関する項目>							
(1) コミュニケーション頻度							
(A)~(C)直接会う頻度(平均得点)	362	2.39	0.95	126	2.30	0.95	
(A)~(C)電話やメールの頻度(平均得点)	364	2.64	0.90	125	2.42	0.88	**
(2) 共時行動							
(A)~(C)共時行動の個数(0~3)	364	1.38	1.10	134	0.88	0.87	***
(A)~(C)①政治や社会の会話(比率)	364	0.25	0.38	134	0.15	0.32	**
(A)~(C)②金銭やものの貸借(比率)	364	0.26	0.40	134	0.06	0.19	***
(A)~(C)③悩みの相談(比率)	364	0.57	0.44	134	0.46	0.45	*
(3) 主観的意味							
(A)~(C)主観的意味の多様度(0~3)	364	1.85	0.62	134	1.37	0.71	***
(A)~(C)①一緒にいると楽しい(好感・親密感①:比率)	364	0.93	0.22	134	0.67	0.41	***
(A)~(C)②親しみを感じる(好感・親密感②:比率)	364	0.85	0.31	134	0.62	0.43	***
(A)~(C)③尊敬している(尊敬・肯定的評価①:比率)	364	0.44	0.42	134	0.24	0.34	***
(A)~(C)④自分の弱みをさらけ出せる(尊敬・肯定的評価②:比率)	364	0.53	0.41	134	0.31	0.40	***
(A)~(C)④ライバルだと思う(劣等感・競争意識①:比率)	364	0.20	0.32	134	0.09	0.19	***
(A)~(C)⑤劣等感を感じる(劣等感・競争意識②:比率)	364	0.08	0.21	134	0.05	0.18	
(4) 社会化機能							
(A)~(C)社会化機能の多様度(0~3)	364	1.71	0.85	134	1.07	0.82	***
(A)~(C)⑥一緒にいると安心する(心理的安定化:比率)	364	0.65	0.40	134	0.43	0.42	***
(A)~(C)⑦真剣に話が出来(社会的スキル①:比率)	364	0.71	0.38	134	0.42	0.42	***
(A)~(C)⑧その人のおかげで友達づきあいがうまくなった(社会的スキル②:比率)	364	0.24	0.33	134	0.07	0.20	***
(A)~(C)⑩ケンカをしても仲直りできる(社会的スキル③:比率)	364	0.60	0.45	134	0.32	0.41	***
(A)~(C)⑪その人のような生き方や考え方をしてみたい(:モデル:比率)	364	0.25	0.35	134	0.10	0.23	***

表2-2 「趣味縁的ネットワーク」の有無とその他の特性

	趣味ネットワーク有			趣味ネットワーク無			有意差
	n	平均値	標準偏差	n	平均値	標準偏差	
<ネットワークの影響に関わる項目>							
(1)生活や集団満足度							
Q39生活満足度(平均得点)	361	2.75	0.70	128	2.72	0.79	
F3①父親との関係満足度(平均得点)	340	3.14	0.93	127	3.31	0.75	※
F3②母親との関係満足度(平均得点)	357	3.37	0.82	131	3.44	0.72	
Q8友だち(恋人を含む)との満足度(平均得点)	363	3.52	0.68	128	3.45	0.69	
F9職場の満足度(平均得点)	208	2.48	0.88	82	2.51	0.85	
F10学校の満足度(平均得点)	135	2.93	0.84	44	2.55	1.00	*
Q14居住地域愛着度(平均得点)	363	3.21	0.99	134	3.09	1.15	
(2)コミュニケーションスキル							
Q32①～⑥コミュニケーションスキルの個数(0～6)	363	3.61	1.54	133	3.08	1.51	**
Q32①誰でもすぐ仲良くなれる(平均得点)	363	2.67	0.81	133	2.60	0.79	
Q32②表情やしぐさで相手の思っていることがわかる(平均得点)	363	2.90	0.74	131	2.77	0.78	
Q32③人の話の内容が間違いだと思ったときには、自分の考えを述べるようにしている(平均得点)	363	2.72	0.75	130	2.55	0.81	*
Q32④気持ちをおさえようとしても、それが顔に表れてしまう(平均得点)	362	2.76	0.93	133	2.65	0.85	
Q32⑤まわりの人たちとのあいだでトラブルが起きても、それを上手に処理できる(平均得点)	361	2.60	0.75	130	2.42	0.71	*
Q32⑥感情を素直にあらわせる(平均得点)	362	2.93	0.83	132	2.57	0.88	***
(3)一般的信頼							
Q35①ほとんどの人は信頼できる(平均得点)	362	2.32	0.80	133	2.28	0.79	
(4)政治参加経験							
Q21.1～Q21.7 政治参加経験の個数(0～7)	362	1.35	1.23	134	1.10	1.43	*
<その他の集団所屬に関わる項目>							
(1)団体加入状況							
Q3.1～Q3.10 何らかの団体への加入(比率)	357	0.29	0.45	131	0.17	0.38	**
1. 地域のサークルや団体など(加入比率)	357	0.03	0.17	131	0.02	0.15	
2. 全国的な青少年団体など(加入比率)	357	0.00	0.00	131	0.01	0.09	
3. 労働組合(加入比率)	357	0.02	0.15	131	0.02	0.12	
4. 生協・消費者団体(加入比率)	357	0.01	0.12	131	0.00	0.00	
5. 政治団体(政党や後援会など)(加入比率)	357	0.00	0.05	131	0.00	0.00	
6. 宗教にかかわる団体(加入比率)	357	0.02	0.13	131	0.02	0.15	
7. 職場のサークルやクラブなど(加入比率)	357	0.05	0.21	131	0.01	0.09	*
8. 趣味に関するサークルや団体(加入比率)	357	0.15	0.36	131	0.07	0.25	*
9. インターネット上の集まり(加入比率)	357	0.06	0.25	131	0.02	0.15	*
10. その他の団体(加入比率)	357	0.04	0.19	131	0.02	0.15	
11. 特に団体などには入っていない(比率)	357	0.71	0.45	131	0.83	0.38	**
(2)つき合いを大切にする相手							
1. 父親(比率)	359	0.53	0.50	133	0.53	0.50	
2. 母親(比率)	359	0.65	0.48	133	0.68	0.47	
3. きょうだい(比率)	359	0.46	0.50	133	0.41	0.49	
4. 配偶者(比率)	359	0.07	0.26	133	0.08	0.28	
5. 祖父母または親類(比率)	359	0.21	0.41	133	0.19	0.39	
6. 恋人(比率)	359	0.44	0.50	133	0.29	0.46	**
7. 学校の先生(比率)	359	0.08	0.27	133	0.06	0.24	
8. 近所や学校の友だち(比率)	359	0.54	0.50	133	0.45	0.50	※
9. 学校の先輩(比率)	359	0.13	0.33	133	0.08	0.28	
10. 職場の上司(比率)	359	0.21	0.41	133	0.15	0.36	
11. 職場の同僚(比率)	359	0.39	0.49	133	0.36	0.48	
12. 団体・グループなどの仲間(比率)	359	0.16	0.37	133	0.11	0.31	
13. その他(比率)	359	0.07	0.26	133	0.05	0.22	
つき合いを大切にする相手の個数(1～13)	354	3.88	1.92	133	3.44	2.09	*

の検定などを行い、それぞれの特徴を把握する。なお基本属性と「趣味縁的ネットワーク」の有無については、有意な関連は全く見られなかったが、他のいくつかの項目については、興味深い結果が得られた。

表2-1などから総じて言えるのは、「趣味縁的ネットワーク」を有している若者のほうが人間関係全般においてもアクティブということであろう。「親友」や「仲のよい友だち」「知り合い程度の友だち」といったいずれの種類の友人においても人数が多く（親友が、趣味縁有 4.51人 > 趣味縁無 3.36人、仲の良い友だちが 16.72人 > 12.85人、知り合い程度の友だちが 67.60人 > 34.61人、以下同様）、また恋愛経験の比率も高かった（現在恋愛中の比率が 0.50 > 0.26）。また多様な「共時行動」を行っているだけでなく（共時行動の個数

1.38 > 0.88）、多様な「主観的意味」や「社会化機能」を見出しているなど（前者の多様度、1.85 > 1.37、後者が 1.71 > 1.07）、「多重送信」的な人間関係のありようをもっていた。だがその一方で、異性や異年齢の比率や知り合った場所の多様度については、関連が見られず（異性比率 0.18 と 0.17、異年齢比率 0.29 と 0.31、知り合った場所の多様度 0.22 と 0.24）、また密度は「趣味縁的ネットワーク」を有している若者のほうが高かった（0.61 > 0.53）。

さらに表2-2から、その他の特性についてみると、「趣味縁的ネットワーク」を有している若者のほうが、コミュニケーションスキルや政治参加経験の度合いも高いことがわかる（コミュニケーションスキルの個数 3.61 > 3.08、政治参加経験の個数 1.35 > 1.10）。

表3 趣味の単純集計表（MA）

n=671(趣味があると回答したもの)

	度数	%
1. 音楽鑑賞・オーディオ	434	64.7
3. 映画や演劇	296	44.1
6. マンガ	266	39.6
24. ファッション	246	36.7
5. 自分でやるスポーツ	230	34.3
8. ゲーム(テレビ/オンラインゲーム、ゲームセンター)	208	31.0
12. 小説・文学・哲学の読書	204	30.4
30. インターネット	192	28.6
9. カラオケ	182	27.1
4. スポーツ観戦	169	25.2
27. 国内旅行	136	20.3
22. 食べ歩き	135	20.1
2. 楽器演奏(バンド、オーケストラを含む)	124	18.5
23. ウィンドーショッピング	122	18.2
28. 海外旅行	115	17.1
7. アニメ	109	16.2
21. 料理作り	102	15.2
25. 写真撮影	87	13.0
11. ライトノベルの読書	77	11.5
26. ドライブ・ツーリング	77	11.5
17. 麻雀・パチンコ・パチスロ	36	5.4
15. プラモデル・ラジコン・工作	21	3.1
16. 切手・古物やさまざまなグッズのコレクション	21	3.1
10. ポエム・エッセイ	20	3.0
13. 囲碁・将棋・チェス・トランプ	19	2.8
19. 釣り	15	2.2
29. アイドルやタレントなどのおっかけ	13	1.9
14. 鉄道関係(撮影・模型・乗車など)	12	1.8
20. ガーデニング	12	1.8
18. 競輪・競馬・オートレース	8	1.2

表4 趣味の因子分析結果 (表3で10%未満のものは除いた)

	ACG因子	旅行因子	消費因子	読書因子	音楽因子	スポーツ因子
8. ゲーム(テレビ/オンラインゲーム、ゲームセンター)	0.621	-0.011	-0.042	-0.057	0.012	0.106
7. アニメ	0.582	0.011	-0.118	0.184	-0.013	-0.086
6. マンガ	0.549	-0.047	0.008	0.083	0.159	0.032
30. インターネット	0.334	0.037	0.154	0.136	0.070	0.017
9. カラオケ	0.306	-0.017	0.229	-0.106	0.233	0.037
27. 国内旅行	0.004	0.734	0.117	0.001	0.064	0.047
28. 海外旅行	-0.150	0.524	0.175	0.155	0.028	0.071
26. ドライブ・ツーリング	0.069	0.230	0.148	-0.115	-0.016	0.145
25. 写真撮影	0.092	0.230	0.190	0.187	0.101	0.017
24. ファッション	-0.081	0.016	0.488	-0.015	0.196	0.076
22. 食べ歩き	0.051	0.170	0.425	0.003	-0.052	-0.036
23. ウィンドーショッピング	-0.033	0.106	0.390	0.192	0.082	-0.041
21. 料理作り	0.059	0.153	0.356	0.186	-0.021	-0.048
12. 小説・文学・哲学の読書	0.015	0.036	0.145	0.539	0.164	-0.054
11. ライトノベルの読書	0.228	0.018	0.044	0.453	-0.028	-0.052
1. 音楽鑑賞・オーディオ	0.128	0.002	0.026	0.023	0.656	0.103
3. 映画や演劇	0.052	0.115	0.219	0.193	0.256	0.114
2. 楽器演奏(バンド、オーケストラを含む)	0.042	0.038	0.034	0.065	0.233	-0.109
4. スポーツ観戦	0.100	-0.003	-0.013	-0.053	0.036	0.570
5. 自分でやるスポーツ	-0.028	0.113	-0.008	-0.008	-0.024	0.421

因子抽出法：主因子法

回転法：Kaiserの正規化を伴わないバリマックス法

※7回の反復で回転が収束。

表5 趣味の6因子と基本属性のクロス表

	全体		性別			年齢			
	度数	%	男	女		***	年齢		
							16~19歳	20~24歳	25~29歳
ACG	345	51.4	61.7	42.7	***	61.0	54.6	42.9	**
旅行	185	27.6	21.4	32.8	**	11.0	26.7	38.0	***
消費	372	55.4	34.7	73.0	***	51.9	55.0	57.9	n.s.
読書	233	34.7	28.9	39.7	**	24.0	39.8	36.1	**
音楽	434	64.7	64.6	64.7	n.s.	70.8	66.5	59.4	*
スポーツ	308	45.9	60.7	33.3	***	49.4	43.4	46.2	n.s.

	職業			学歴(社会人のみ)		雇用形態				
	社会人	生徒・学生		***	大卒未満	大卒以上	※	雇用形態		
								正規雇用	非正規雇用	生徒・学生
ACG	44.6	61.1	***	49.4	39.1	※	45.1	44.2	61.1	***
旅行	35.7	16.0	***	29.7	41.9	*	41.5	26.4	16.0	***
消費	57.0	51.8	n.s.	54.7	59.2	n.s.	54.0	60.5	51.8	n.s.
読書	34.6	35.8	n.s.	29.1	39.1	*	33.5	35.7	35.8	n.s.
音楽	61.9	69.6	*	62.2	60.3	n.s.	62.9	61.2	69.6	n.s.
スポーツ	44.1	51.4	※	39.5	48.6	※	51.3	32.6	51.4	**

	最も長く居住した所			趣味縁的ネットワーク		
	東京都	東京都以外		n.s.	趣味縁的ネットワーク	
					有	無
ACG	51.8	51.6	n.s.	55.7	50.4	n.s.
旅行	25.8	32.0	n.s.	30.7	25.7	n.s.
消費	53.7	59.4	n.s.	56.6	46.9	※
読書	32.4	39.7	※	35.3	28.3	n.s.
音楽	65.8	62.1	n.s.	67.2	62.8	n.s.
スポーツ	49.3	38.8	*	44.5	49.6	n.s.

(3) 「趣味縁」における趣味ごとの傾向

次に「趣味縁的ネットワーク」のこうした特徴について、本人の趣味に応じた違いが見られるのか、検討した。今回の調査においては93.3%が趣味を持っていると回答したが、その内訳は表3のとおりである。

さらにこれらの趣味を分類するために、割合が低いもの(10%以下)を除いて因子分析を行った結果が表4であり、ここでは6つの因子が抽出されている¹⁹⁾。それぞれ因子負荷量の大きい趣味(下線で表記)を取り出して検討したうえで、「ACG(アニメ、コミック=マンガ、ゲーム因子)」「旅行(因子)」「消費(因子)」「読書(因子)」「音楽(因子)」「スポーツ(因子)」と名づけた。(なお各因子と基本属性との関連については、表5を参照)

そして「趣味縁的ネットワーク」を有しているものの中で、それぞれの趣味の因子とそれ以外の場合とにおいて、どのような違いが見られるのかを検討したのが表6-1-1、6-2-1、6-1-2、6-2-2である²⁰⁾。

まず「趣味縁的ネットワーク」全般の特徴として指摘した、人間関係全般におけるアクティブさなどは、「旅行」や「消費」といった趣味において特に見られることがわかる(表6-1-1、表6-2-1)。

「旅行」においては他の趣味と比べて、親友の数が多きことや(5.24人)、異性、異年齢、現在及び過去の恋愛経験、知り合った場所の多様度などの比率も高い(それぞれ、0.22、0.35、0.57、0.90、0.32)。さらに共時行動の個数も多く(1.64個)、主観的意味の多様度が高い(1.96)のも特徴的である。

同様に「消費」についても現在及び過去の恋愛経験の比率が高く(0.52、0.82)、さらにネットワークの「内容的」な側面で特に目立った傾向があり、共時行動の個数が多かったり(1.60個)、主観的意味、社会化機能の多様度が高いのが特徴的である(1.96、1.96)。加えて、そのほかに「旅行」も「消費」もコミュニケーションスキルも高い傾向にある(個数が3.96、3.90)。

逆に「ACG」においては、異性や異年齢、知り合っ

た場所の多様度、そして現在及び過去の恋愛経験の比率が低い(0.16、0.26、0.20、0.39、0.73)。また共時行動の中の「③悩みの相談」の比率や(0.55)、そのほかにコミュニケーションスキルの中の「①誰とでもすぐ仲良くなれる(関係開始)」「②表情やしぐさで相手の思っていることがわかる(解読)」などの得点が低い(2.56、2.86)。

また表6-1-2や6-2-2を見ると、一般的に、「ACG」とは逆にポジティブなイメージのある「スポーツ」においては、さほど目立った傾向がなく、確かに親友の数は多いが(5.18人)、社会化機能の多様度は低く(1.65)、また共時行動の中の「③悩みの相談」の比率も「ACG」と同様に低かった(0.53)。ただし、コミュニケーションスキルや一般的信頼などは高かった(3.85、2.43)。そのほかの「読書」や「音楽」については、他と比べて特に目立った傾向は見られなかった。

5. まとめ

以上のように、本論文は浅野²¹⁾が定義した「趣味縁」における下位分類、すなわち「趣味集団」と「趣味友人」とでいうならば、後者に着目し、パーソナル・ネットワーク論の方法を用いてより詳細に検討を加えてきたものである。ここまでの知見は以下のようにまとめられよう。

第一に、「趣味友人」あるいは「趣味縁的ネットワーク」においても、趣味の内容に応じた、さらなる下位分類がありうるということであろう。一つには「趣味縁的ネットワーク」の特徴がさらに強く現れていた、「旅行」や「消費」といった趣味があったが、これらは広義において「消費行動型の趣味」としてまとめうるものだろう。そして、むしろそれとはやや異なった特徴が現れていた「ACG」や「スポーツ」などの趣味もあったが、これらはいわば「特定課題達成型の趣味」とでも呼ぶうるものであろう。これらの対比で言うならば、むしろ前者の趣味のほうが、人間関係全般のアクティブさやネットワークの「多重送信」性などが高かった。こうした状況は、若者たちの社会化がなされる場が、もはや学校などの既存の組織

表6-1-1 趣味別ネットワーク特性(「ACG」「旅行」「消費」)

	ACG			有意差	旅行			有意差	消費			
	n	平均値	標準偏差		n	平均値	標準偏差		n	平均値	標準偏差	有意差
<「形式的」な側面に関わる項目>												
(1)ネットワーク規模												
Q6.1①親友の数(合計)	190	4.65	4.30		105	5.24	4.99	+※	194	4.65	4.11	---
Q6.1①親友の数(男)	185	2.54	3.60		102	2.19	3.65		191	1.66	3.16	---
Q6.1①親友の数(女)	186	2.08	2.52	-※	104	3.05	2.79	+++	193	2.98	2.60	+++
Q6.2②仲のよい友だちの数	185	16.53	15.45		101	17.14	16.77		189	16.92	16.15	
Q6.3③知り合い程度の友だちの数	179	53.51	69.24		97	59.80	77.88		180	58.78	72.51	
Q7.0特に親しくしている人(0~3人)	194	2.92	0.33		107	2.96	0.19		197	2.95	0.26	
(2)ネットワーク構成員属性												
(A)~(C)男性比率	193	0.52	0.40	+	106	0.39	0.35	--	196	0.35	0.35	---
(A)~(C)異性比率	193	0.16	0.22	-	106	0.22	0.24	+	196	0.19	0.23	
(A)~(C)異年齢比率	193	0.26	0.34	-※	107	0.35	0.32	+	197	0.28	0.34	
(A)~(C)恋人が含まれる比率	194	0.25	0.43	-※	107	0.37	0.49	+	197	0.32	0.47	+※
※Q10現在恋愛中の比率	193	0.39	0.49	--	106	0.57	0.50	+	194	0.52	0.50	+※
※Q10恋愛経験の比率	193	0.73	0.44	--	106	0.90	0.31	++	194	0.82	0.38	+※
※Q10SQ1交際した恋人の人数	191	2.87	3.30		103	3.77	3.38	++	189	3.29	3.37	+※
(3)知り合った場所												
(A)~(C)知り合った場所の多様度(比率)	188	0.20	0.25	-※	107	0.32	0.26	+++	195	0.25	0.27	+※
(A)~(C)①学校で(比率)	191	0.66	0.36	+	107	0.53	0.37	--	197	0.59	0.38	
(A)~(C)②学校の部活やサークル活動で(比率)	191	0.10	0.23		107	0.09	0.20		197	0.10	0.24	
(A)~(C)③塾や予備校で(比率)	191	0.02	0.11		107	0.02	0.11		197	0.02	0.09	
(A)~(C)④職場で(アルバイト先を除く)(比率)	191	0.05	0.17	--	107	0.11	0.23	+※	197	0.08	0.21	
(A)~(C)⑤職場のサークル活動で(比率)	191	0.00	0.04		107	0.01	0.06		197	0.00	0.04	
(A)~(C)⑥学校や職場以外のならいごとやサークル活動で(比率)	191	0.03	0.13		107	0.03	0.14		197	0.03	0.14	
(A)~(C)⑦アルバイト先で(比率)	191	0.04	0.14		107	0.06	0.13		197	0.05	0.16	
(A)~(C)⑧親戚つきあいで(比率)	191	0.00	0.02		107	0.00	0.03		197	0.00	0.03	
(A)~(C)⑨近所つきあいで(比率)	191	0.01	0.06		107	0.02	0.08	+※	197	0.01	0.05	
(A)~(C)⑩街で(ディスコ・クラブ・ゲームセンターなど)(比率)	191	0.01	0.06		107	0.02	0.11		197	0.01	0.07	
(A)~(C)⑪インターネットや携帯電話のサイトで(比率)	191	0.01	0.09		107	0.01	0.06		197	0.01	0.05	
(A)~(C)⑫その他(比率)	191	0.05	0.16	-	107	0.10	0.21	+※	197	0.09	0.21	
(4)ネットワーク構造												
ネットワーク密度(比率)	188	0.63	0.35		105	0.58	0.38		193	0.60	0.36	
<「内容的」な側面に関わる項目>												
(1)コミュニケーション頻度												
(A)~(C)直接会う頻度(平均得点)	193	2.38	0.94		107	2.32	0.77		196	2.40	0.93	
(A)~(C)電話やメールの頻度(平均得点)	194	2.62	0.90		107	2.75	0.80	+※	197	2.70	0.84	
(2)共時行動												
(A)~(C)共時行動の個数(0~3)	194	1.42	1.12		107	1.64	1.02	+	197	1.60	1.04	++
(A)~(C)①政治や社会の会話(比率)	194	0.26	0.38		107	0.35	0.42	++	197	0.30	0.41	+
(A)~(C)②金銭やものの貸借(比率)	194	0.30	0.43		107	0.24	0.37		197	0.30	0.42	
(A)~(C)③悩みの相談(比率)	194	0.55	0.44	-	107	0.71	0.39	+++	197	0.71	0.39	+++
(3)主観的意味												
(A)~(C)主観的意味の多様度(0~3)	194	1.87	0.57		107	1.96	0.60	+※	197	1.96	0.55	++
(A)~(C)①一緒にいると楽しい(好感・親密感①:比率)	194	0.94	0.19		107	0.93	0.22		197	0.97	0.14	++
(A)~(C)②親しみを感じる(好感・親密感②:比率)	194	0.86	0.30		107	0.89	0.26		197	0.91	0.24	+++
(A)~(C)③尊敬している(尊敬・肯定的評価①:比率)	194	0.41	0.39	-※	107	0.57	0.41	+++	197	0.51	0.42	++
(A)~(C)④自分の弱みをさらけ出せる(尊敬・肯定的評価②:比率)	194	0.53	0.41		107	0.59	0.40		197	0.62	0.39	+++
(A)~(C)⑤ライバルだと思う(劣等感・競争意識①:比率)	194	0.21	0.31		107	0.22	0.33		197	0.18	0.30	
(A)~(C)⑥劣等感を感じる(劣等感・競争意識②:比率)	194	0.07	0.20		107	0.07	0.20		197	0.08	0.22	
(4)社会化機能												
(A)~(C)社会化機能の多様度(0~3)	194	1.75	0.80		107	1.83	0.81		197	1.96	0.72	+++
(A)~(C)⑥一緒にいると安心する(心理的安定化:比率)	194	0.68	0.39		107	0.72	0.37		197	0.76	0.34	+++
(A)~(C)⑦真剣に話が出来る(社会的スキル①:比率)	194	0.70	0.38		107	0.79	0.35	+	197	0.81	0.33	+++
(A)~(C)⑧その人のおかげで友達づきあいがうまくなった(社会的スキル②:比率)	194	0.24	0.33		107	0.27	0.33		197	0.30	0.34	+++
(A)~(C)⑨ケンカをしても仲直りできる(社会的スキル③:比率)	194	0.64	0.43		107	0.65	0.44		197	0.68	0.42	+++
(A)~(C)⑩その人のような生き方や考え方をしてみたい(モデル:比率)	194	0.25	0.35		107	0.26	0.34		197	0.31	0.37	+++

表6-2-1 趣味別その他の特性（「ACG」「旅行」「消費」）

	ACG			旅行			消費					
	n	平均値	標準偏差	有意差	n	平均値	標準偏差	有意差	n	平均値	標準偏差	有意差
<ネットワークの影響に関わる項目>												
(1)生活や集団満足度												
Q39生活満足度(平均得点)	194	2.75	0.76		107	2.81	0.66		196	2.74	0.68	
F3①父親との関係満足度(平均得点)	182	3.07	0.95		99	3.18	0.94		186	3.12	0.98	
F3②母親との関係満足度(平均得点)	188	3.32	0.82		106	3.43	0.78		194	3.39	0.80	
Q8友だち(恋人を含む)との満足度(平均得点)	193	3.55	0.65		107	3.52	0.62		197	3.54	0.66	
F9職場の満足度(平均得点)	97	2.46	0.91		77	2.52	0.94		112	2.51	0.87	
F10学校の満足度(平均得点)	88	2.99	0.84		23	3.04	0.82		71	2.93	0.85	
Q14居住地域愛着度(平均得点)	194	3.20	0.99		106	3.34	0.97		196	3.29	0.92	
(2)コミュニケーションスキル												
Q32①～⑥コミュニケーションスキルの個数(0～6)	194	3.59	1.58		107	3.96	1.41 +		197	3.90	1.48 ++	
Q32①誰とでもすぐ仲良くなれる(平均得点)	194	2.56	0.83	—	107	2.91	0.80 ++		197	2.78	0.78 +	
Q32②表情やしぐさで相手の思っていることがわかる(平均得点)	194	2.86	0.76	-※	107	3.04	0.69 +※		197	3.01	0.70 +	
Q32③人の話の内容が間違いだと思ったときには、自分の考えを述べるようにしている(平均得点)	194	2.72	0.76		107	2.78	0.73		197	2.77	0.71	
Q32④気持ちをおさえようとしても、それが顔に表れてしまう(平均得点)	193	2.73	0.96		107	2.92	0.96 +※		197	2.78	0.87	
Q32⑤まわりの人たちとのあいだでトラブルが起きて、それを上手に処理できる(平均得点)	193	2.61	0.80		105	2.72	0.74 +※		195	2.70	0.71 +	
Q32⑥感情を素直にあらわさせる(平均得点)	193	2.90	0.86		107	3.09	0.89 +※		197	2.98	0.80	
(3)一般的信頼												
Q35①ほとんどの人は信頼できる(平均得点)	193	2.28	0.81		106	2.36	0.84		196	2.30	0.81	
(4)政治参加経験												
Q21.1～Q21.7 政治参加経験の個数(0～7)	192	1.49	1.29	+※	107	1.65	1.38 +		196	1.52	1.29 +	
<その他の集団所属に関わる項目>												
(1)団体加入状況												
Q3.1～Q3.10 何らかの団体への加入(比率)	191	0.34	0.47		102	0.34	0.48		192	0.27	0.44 -※	
1. 地域のサークルや団体など(加入比率)	191	0.03	0.17		102	0.05	0.22		192	0.02	0.14	
2. 全国的な青少年団体など(加入比率)	191	0.00	0.00		102	0.00	0.00		192	0.00	0.00	
3. 労働組合(加入比率)	191	0.03	0.17		102	0.03	0.17		192	0.03	0.17	
4. 生協・消費者団体(加入比率)	191	0.01	0.10		102	0.00	0.00 -※		192	0.02	0.12	
5. 政治団体(政党や後援会など)(加入比率)	191	0.01	0.07		102	0.01	0.10		192	0.01	0.07	
6. 宗教にかかわる団体(加入比率)	191	0.02	0.14		102	0.01	0.10		192	0.01	0.10	
7. 職場のサークルやクラブなど(加入比率)	191	0.05	0.22		102	0.09	0.29 +		192	0.05	0.22	
8. 趣味に関するサークルや団体(加入比率)	191	0.16	0.37		102	0.19	0.39		192	0.15	0.35	
9. インターネット上の集まり(加入比率)	191	0.12	0.32	+++	102	0.09	0.29		192	0.09	0.28 +※	
10. その他の団体(加入比率)	191	0.04	0.19		102	0.05	0.22		192	0.03	0.16	
11. 特に団体などには入っていない(比率)	191	0.66	0.47		102	0.66	0.48		192	0.73	0.44 +※	
(2)つき合いを大切にする相手												
1. 父親(比率)	191	0.54	0.50		105	0.64	0.48 +		197	0.59	0.49 +※	
2. 母親(比率)	191	0.64	0.48		105	0.76	0.43 +		197	0.71	0.45 +※	
3. きょうだい(比率)	191	0.45	0.50		105	0.59	0.49 ++		197	0.50	0.50	
4. 配偶者(比率)	191	0.05	0.22		105	0.03	0.17 -		197	0.08	0.27	
5. 祖父母または親類(比率)	191	0.21	0.41		105	0.30	0.46 ++		197	0.24	0.43	
6. 恋人(比率)	191	0.42	0.49		105	0.58	0.50 ++		197	0.48	0.50	
7. 学校の先生(比率)	191	0.10	0.31 +※		105	0.10	0.29		197	0.09	0.28	
8. 近所や学校の友だち(比率)	191	0.65	0.48 +++		105	0.56	0.50		197	0.56	0.50	
9. 学校の先輩(比率)	191	0.16	0.37 +		105	0.11	0.32		197	0.14	0.34	
10. 職場の上司(比率)	191	0.20	0.40		105	0.26	0.44		197	0.21	0.41	
11. 職場の同僚(比率)	191	0.38	0.49		105	0.53	0.50 +++		197	0.42	0.50	
12. 団体・グループなどの仲間(比率)	191	0.17	0.37		105	0.19	0.39		197	0.20	0.40 +※	
13. その他(比率)	191	0.06	0.24		105	0.08	0.27		197	0.09	0.29 +※	
つき合いを大切にする相手の個数(1～13)	188	3.97	1.87		102	4.61	2.00 +++		195	4.25	1.97 +※	

表6-1-2 趣味別ネットワーク特性（「読書」「音楽」「スポーツ」）

	読書			音楽			スポーツ					
	n	平均値	標準偏差	有意差	n	平均値	標準偏差	有意差	n	平均値	標準偏差	有意差
<「形式的」な側面に関わる項目>												
(1) ネットワーク規模												
Q6.1①親友の数(合計)	120	4.65	4.10		229	4.76	4.23		153	5.18	5.11	+
Q6.1①親友の数(男)	119	2.20	2.94		224	2.40	3.50		152	3.30	4.20	+
Q6.1①親友の数(女)	119	2.48	2.74		225	2.35	2.60		152	1.85	2.44	-
Q6.2②仲のよい友だちの数	115	16.17	16.58		221	17.25	17.41		149	17.30	17.40	
Q6.3③知り合い程度の友だちの数	112	50.30	64.26		209	57.44	73.66		142	60.29	73.44	
Q7.0特に親しくしている人(0~3人)	123	2.96	0.24		234	2.95	0.27		155	2.95	0.24	
(2) ネットワーク構成員属性												
(A)~(C)男性比率	123	0.47	0.38		234	0.49	0.40		154	0.60	0.39	+++
(A)~(C)異性比率	123	0.19	0.22		234	0.18	0.23		154	0.17	0.22	
(A)~(C)異年齢比率	123	0.29	0.35		234	0.28	0.33		154	0.29	0.34	
(A)~(C)恋人が含まれる比率	123	0.26	0.44		234	0.28	0.45		155	0.26	0.44	
※Q10現在恋愛中の比率	121	0.43	0.50		233	0.46	0.50		154	0.46	0.50	
※Q10恋愛経験の比率	121	0.82	0.39		233	0.77	0.42		154	0.79	0.41	
※Q10SQ1交際した恋人の人数	119	2.76	2.29		231	2.88	2.91		151	2.96	2.75	
(3) 知り合った場所												
(A)~(C)知り合った場所の多様性(比率)	120	0.25	0.26		229	0.24	0.27		151	0.23	0.26	
(A)~(C)①学校で(比率)	121	0.61	0.37		232	0.60	0.38		152	0.59	0.37	
(A)~(C)②学校の部活やサークル活動で(比率)	121	0.11	0.22		232	0.11	0.24		152	0.14	0.27	+
(A)~(C)③塾や予備校で(比率)	121	0.01	0.07		232	0.02	0.09		152	0.02	0.09	
(A)~(C)④職場で(アルバイト先を除く)(比率)	121	0.06	0.17		232	0.07	0.19		152	0.08	0.22	
(A)~(C)⑤職場のサークル活動で(比率)	121	0.01	0.05		232	0.00	0.04		152	0.00	0.04	
(A)~(C)⑥学校や職場以外のならいごとやサークル活動で(比率)	121	0.03	0.16		232	0.03	0.14		152	0.03	0.15	
(A)~(C)⑦アルバイト先で(比率)	121	0.04	0.13		232	0.04	0.14		152	0.04	0.12	
(A)~(C)⑧親戚つきあいで(比率)	121	0.00	0.03		232	0.00	0.00	※	152	0.00	0.00	
(A)~(C)⑨近所つきあいで(比率)	121	0.01	0.06		232	0.01	0.06		152	0.01	0.05	
(A)~(C)⑩街で(ディスコ・クラブ・ゲームセンターなど)(比率)	121	0.02	0.09		232	0.02	0.09		152	0.01	0.05	
(A)~(C)⑪インターネットや携帯電話のサイトで(比率)	121	0.01	0.07		232	0.01	0.08		152	0.01	0.06	
(A)~(C)⑫その他(比率)	121	0.09	0.21		232	0.08	0.20		152	0.08	0.19	
(4) ネットワーク構造												
ネットワーク密度(比率)	120	0.62	0.37		229	0.62	0.36		152	0.60	0.37	
<「内容的」な側面に関わる項目>												
(1) コミュニケーション頻度												
(A)~(C)直接会う頻度(平均得点)	123	2.35	0.94		233	2.45	0.94		154	2.43	0.91	
(A)~(C)電話やメールの頻度(平均得点)	123	2.60	0.88		234	2.69	0.87	※	155	2.69	0.90	
(2) 共時行動												
(A)~(C)共時行動の個数(0~3)	123	1.68	1.05		234	1.47	1.07		155	1.37	1.13	
(A)~(C)①政治や社会の会話(比率)	123	0.34	0.42	+	234	0.26	0.38		155	0.28	0.40	
(A)~(C)②金銭やものの貸借(比率)	123	0.36	0.45	+	234	0.31	0.43	++	155	0.26	0.41	
(A)~(C)③悩みの相談(比率)	123	0.65	0.41	※	234	0.59	0.42		155	0.53	0.44	-
(3) 主観的意味												
(A)~(C)主観的意味の多様性(0~3)	123	1.99	0.58	++	234	1.86	0.59		155	1.82	0.64	
(A)~(C)①一緒にいると楽しい(好感・親密感①:比率)	123	0.95	0.19		234	0.94	0.19		155	0.92	0.23	
(A)~(C)②親しみを感じる(好感・親密感②:比率)	123	0.86	0.30		234	0.86	0.30		155	0.81	0.35	-
(A)~(C)③尊敬している(尊敬・肯定的評価①:比率)	123	0.55	0.40	++	234	0.46	0.41		155	0.40	0.42	※
(A)~(C)④自分の弱みをさらけ出せる(尊敬・肯定的評価②:比率)	123	0.58	0.41		234	0.54	0.41		155	0.50	0.43	
(A)~(C)⑤ライバルだと思う(劣等感・競争意識①:比率)	123	0.24	0.35	※	234	0.19	0.31		155	0.21	0.33	
(A)~(C)⑥劣等感を感じる(劣等感・競争意識②:比率)	123	0.12	0.27	+	234	0.07	0.20		155	0.07	0.21	
(4) 社会化機能												
(A)~(C)社会化機能の多様性(0~3)	123	1.81	0.81		234	1.78	0.81		155	1.65	0.82	-
(A)~(C)⑥一緒にいると安心する(心理的安定化:比率)	123	0.67	0.39		234	0.69	0.39		155	0.64	0.41	
(A)~(C)⑦真剣に話ができる(社会的スキル①:比率)	123	0.74	0.36		234	0.73	0.37		155	0.72	0.38	
(A)~(C)⑧その人のおかげで友達つきあいがうまくなった(社会的スキル②:比率)	123	0.25	0.33		234	0.23	0.32		155	0.24	0.35	
(A)~(C)⑨ケンカをしても仲直りできる(社会的スキル③:比率)	123	0.62	0.44		234	0.63	0.43		155	0.57	0.46	
(A)~(C)⑩その人のような生き方や考え方をしてみたい(モデル:比率)	123	0.30	0.38	※	234	0.26	0.35		155	0.20	0.33	-

表6-2-2 趣味別その他の特性（「読書」「音楽」「スポーツ」）

	読書			音楽			スポーツ					
	n	平均値	標準偏差	有意差	n	平均値	標準偏差	有意差	n	平均値	標準偏差	有意差
<ネットワークの影響に関する項目>												
(1)生活や集団満足度												
Q39生活満足度(平均得点)	122	2.82	0.64		233	2.73	0.73		154	2.79	0.72	
F3①父親との関係満足度(平均得点)	114	3.04	0.96		216	3.17	0.85		150	3.16	0.88	
F3②母親との関係満足度(平均得点)	118	3.31	0.86		228	3.35	0.83		153	3.33	0.85	
Q8友だち(恋人を含む)との満足度(平均得点)	123	3.54	0.64		233	3.56	0.67		155	3.51	0.67	
F9職場の満足度(平均得点)	70	2.64	0.89	+※	127	2.49	0.93		76	2.45	0.89	
F10学校の満足度(平均得点)	46	3.00	0.84		95	2.95	0.82		72	2.88	0.82	
Q14居住地域愛着度(平均得点)	123	3.34	0.81		233	3.32	0.83	+	154	3.24	0.98	
(2)コミュニケーションスキル												
Q32①～⑥コミュニケーションスキルの個数(0～6)	123	3.70	1.45		233	3.73	1.49		155	3.85	1.48	+
Q32①誰とでもすぐ仲良くなれる(平均得点)	123	2.59	0.77	-※	233	2.73	0.80		155	2.76	0.77	
Q32②表情やしぐさで相手の思っていることがわかる(平均得点)	123	2.93	0.71		233	2.97	0.73		155	2.94	0.72	
Q32③人の話の内容が間違いだと思ったときには、自分の考えを述べるようにしている(平均得点)	123	2.73	0.73		233	2.69	0.74	-	155	2.75	0.71	
Q32④気持ちをおさえようとしても、それが顔に表れてしまう(平均得点)	122	2.69	0.94		232	2.75	0.94		155	2.81	0.84	
Q32⑤まわりの人たちとのあいだでトラブルが起きて、それを上手に処理できる(平均得点)	122	2.67	0.72		232	2.66	0.75		155	2.68	0.76	
Q32⑥感情を素直にあらわさせる(平均得点)	123	2.93	0.80		232	2.94	0.84		154	3.04	0.77	+
(3)一般的信頼												
Q35①ほとんどの人は信頼できる(平均得点)	122	2.34	0.79		233	2.38	0.82	+	155	2.43	0.85	+
(4)政治参加経験												
Q21.1～Q21.7 政治参加経験の個数(0～7)	122	1.75	1.37	+++	233	1.48	1.29	+	154	1.43	1.26	
<その他の集団所属に関する項目>												
(1)団体加入状況												
Q3.1～Q3.10 何らかの団体への加入(比率)	121	0.37	0.49	+	230	0.32	0.47		150	0.35	0.48	+※
1. 地域のサークルや団体など(加入比率)	121	0.03	0.18		230	0.03	0.18		150	0.06	0.24	+
2. 全国的な青少年団体など(加入比率)	121	0.00	0.00		230	0.00	0.00		150	0.00	0.00	
3. 労働組合(加入比率)	121	0.02	0.16		230	0.02	0.15		150	0.03	0.18	
4. 生協・消費者団体(加入比率)	121	0.01	0.09		230	0.01	0.11		150	0.01	0.08	
5. 政治団体(政党や後援会など)(加入比率)	121	0.01	0.09		230	0.00	0.07		150	0.01	0.08	
6. 宗教にかかわる団体(加入比率)	121	0.02	0.13		230	0.03	0.16	+	150	0.02	0.14	
7. 職場のサークルやクラブなど(加入比率)	121	0.07	0.25		230	0.05	0.21		150	0.06	0.24	
8. 趣味に関するサークルや団体(加入比率)	121	0.26	0.44	+++	230	0.18	0.38	+	150	0.19	0.40	+※
9. インターネット上の集まり(加入比率)	121	0.08	0.28		230	0.07	0.26		150	0.07	0.26	
10. その他の団体(加入比率)	121	0.02	0.16		230	0.04	0.19		150	0.03	0.16	
11. 特に団体などには入っていない(比率)	121	0.63	0.49	-	230	0.68	0.47		150	0.65	0.48	-※
(2)つき合いを大切にする相手												
1. 父親(比率)	121	0.57	0.50		230	0.57	0.50		151	0.60	0.49	-※
2. 母親(比率)	121	0.66	0.48		230	0.68	0.47		151	0.69	0.46	
3. きょうだい(比率)	121	0.46	0.50		230	0.49	0.50		151	0.54	0.50	+
4. 配偶者(比率)	121	0.02	0.13	--	230	0.04	0.19		151	0.06	0.24	
5. 祖父母または親類(比率)	121	0.23	0.42		230	0.25	0.43		151	0.24	0.43	
6. 恋人(比率)	121	0.44	0.50		230	0.47	0.50		151	0.48	0.50	
7. 学校の先生(比率)	121	0.08	0.28		230	0.10	0.29		151	0.10	0.30	
8. 近所や学校の友だち(比率)	121	0.63	0.49	-※	230	0.59	0.49		151	0.60	0.49	
9. 学校の先輩(比率)	121	0.16	0.37		230	0.15	0.36	+	151	0.17	0.37	+※
10. 職場の上司(比率)	121	0.27	0.45	+	230	0.22	0.41		151	0.20	0.40	
11. 職場の同僚(比率)	121	0.45	0.50		230	0.37	0.48		151	0.38	0.49	
12. 団体・グループなどの仲間(比率)	121	0.17	0.37		230	0.18	0.38		151	0.22	0.41	+
13. その他(比率)	121	0.06	0.23		230	0.08	0.28		151	0.03	0.18	-
つき合いを大切にする相手の個数(1～13)	120	4.15	2.00		226	4.10	1.90	+	146	4.14	2.02	

や集団ではなくなりつつあり、社会学者の中西新太郎による「(消費)市場を通じた社会化」論²²⁾に近いような実態が明らかになったといえるのではないだろうか。

第二に、しかしながらこうした「趣味縁的ネットワーク」(とりわけ「消費行動型の趣味」のそれ)における人間関係全般のアクティブさについては、注意すべき論点があったことも確かであろう。具体的には、社会学者の土井隆義や筆者が危惧するように²³⁾、若者の友人関係が全般的に同質化する傾向にあるとしたら、果たして「趣味縁」を通して、本当に「異質で多様な他者との出会い」がなされるかという点について言えば、決して楽観的なことは言えないのではないだろうか。たしかにネットワークの「内容的」な面については、共時行動の個数や主観的意味、社会化機能の多様性の比率が高いという傾向が見られた。いわば同じ相手とは、多様な関係(多重送信)を取り結んでいるわけである。しかしネットワークの「形式的」な側面に関しては、確かに友人の数などは多かったものの、むしろ異性や異年齢の比率について有意な差は見られず、むしろ密度が高くなっていった。つまりそれは、属性などの「形式的」な側面において多様なパーソナル・ネットワークをもたらしてくれるものというよりも、むしろ「内容的」な側面における多様さ、すなわち「多重送信」的な人間関係²⁴⁾のありようの一つとしてとらえたほうが妥当である可能性が示唆されたといえよう(このことは、いかなる場合においても、知り合った場所として、「学校」という「社縁」に関する項目が圧倒的に割合が高かったことからもうかがえよう)。

第三に、以上のことから、若者たちにとって、趣味を持つと同時にそれを共にする友人を持つということ、いわば「趣味縁」的な人間関係を有していることは、少なからぬ重要な位置づけを持っていることがあらためて確認された。だが、それが「趣味にうつつをぬかす」といったような逸脱や逃避としてとらえるべきものではないのだとしても、近年の議論が言うように、社会関係資本として期待しうるものなのかどうかについては、今

後もさらに詳細にとらえていくことが必要だろう。

最後に、今後の課題について、いくつか触れておきたい。本論文では、「趣味縁」の趣味内容による違いについては、回答者自身の趣味に基づいて分析を行ったが、もちろんそれとネットワーク上の他者との趣味が一致するかどうかは別問題であり、この点はさらに詳細な検証が必要であろう²⁵⁾。

さらに、本論文においては、パーソナル・ネットワークに関する項目を用いて、いわば「趣味縁」それ自体の特徴を内在的に掘り下げてきたが、今後はさらに、「趣味縁」を独立変数として、それがいかなる効果を持ち合わせているのかという点の検証も必要だろう。例えば、政治参加の積極性や一般的信頼、他者への寛容性の涵養に「趣味縁」がどのような効果を持つのか、重回帰分析によって、基本属性などをコントロールしながら、検証する分析も必要だろう²⁶⁾。

いずれにせよ、若者にとって大きな意味合いを持つ、「趣味縁」について、今後もさらなる検討を重ねていく必要があると言えよう。

引用文献・注

- 1) 藤田英典(1995)「生活環境の変容と青少年の生活世界」総務庁青少年対策本部『青少年の意識の変化に関する基礎的研究—「青少年の連帯感などに関する調査」第1回～第5回の総括』7-13。
坂口里佳(1995)「青少年の友人・仲間関係—〈趣味縁〉的關係の現在とその行方」総務庁青少年対策本部『青少年の意識の変化に関する基礎的研究—「青少年の連帯感などに関する調査」第1回～第5回の総括』52-66。
- 2) 藤田(1995)前掲論文, 13。
- 3) Putnam, Robert D., with Leonardi, Robert and Nanetti, Raffaella Y., (1993) Making democracy work : civic traditions in modern Italy, Princeton University Press: Princeton (= 河田潤一訳, 2001, 『哲学する民主主義—伝統と改革の市民的構造』NTT出版)。

- Putnam, Robert D., (2000) *Bowling alone : the collapse and revival of American community*, Simon & Schuster: New York (= 柴内康文訳, 2006, 『孤独なボウリング—米国コミュニティの崩壊と再生』 柏書房).
- Wuthnow, Robert, (1998) *Loose Connections : Joining Together in America's Fragmented Communities*, Harvard University Press: Cambridge, Mass.
- 4) Putnam (1993=2001) 前掲書.
- 5) 久田邦明編 (2000) 『子どもと若者の居場所』 萌文社.
田中治彦編著 (2001) 『子ども・若者の居場所の構想—「教育」から「関わりの場」へ』 学陽書房.
- 6) 高橋勇悦監修, 川崎賢一・芳賀学・小川博司編 (1995) 『都市青年の意識と行動—若者たちの東京・神戸 90's 分析編』 恒星社厚生閣.
宮台真司 (1996) 『『郊外化』と『近代の成熟』』 井上俊・上野千鶴子・大澤真幸・見田宗介・吉見俊哉編 『現代社会学講座 第10巻 セクシュアリティの社会学』 岩波書店: 203-22.
- 7) 思想の科学研究会編 (1976) 『共同研究 集団—サークルの戦後思想史』 平凡社. など.
- 8) 天野正子 (2005) 『「つきあい」の戦後史—サークル・ネットワークの拓く地平』 吉川弘文館. など.
- 9) Muggleton, David & Weinzierl, Rupert eds., (2003) *The Post-Subcultures Reader*, New York : Berg. など.
- 10) Maffesoli, Michel, (1992) *La Transfiguration du politique : la tribalisation du monde*, Grasset : Paris (= 古田幸男訳, 2000, 『政治的なものの変貌—一部族化／小集団化する世界』 法政大学出版社).
- 11) 知り合った場所の多様度については, ネットワークの構成員同士におけるそれを比率化して検討しており, 特に親しい他者が3人挙げられている場合であれば, 「3人とも知り合った場所が異なる場合」が最も多様度が高い。また, 知り合った場所については, ① + ② = 「学校関連」, ③「塾」, ④ + ⑤ + ⑦ = 「職場・アルバイト先」, ⑧ + ⑨ = 「地縁・血縁」, ⑥ + ⑩ + ⑪ = 「純粹な趣味縁」, ⑫その他としてカテゴリーを再統合の上検討した。なお比率化の際は以下の論文を参照した。石田光規 (2001) 「パーソナルネットワークの多様性—その構造と機能」『年報社会学論集』 14 : 126-38.
- 12) 密度については, 互いの親しさは尋ねていないので, 関係の総数を比率化し, 以下の論文を参照した。Marsden, Peter V., (1987) *Core Discussion Networks of Americans*, *American Sociological Review*, 52:122-31.
- 13) 主観的意味および社会化機能については, 社会心理学者の松井豊のまとめ (以下の論文) を参照し, それぞれ友人に対して感じる意味内容, およびそうした友人が社会化過程において果たしうるとされる機能について, 項目を作成した。
松井豊 (1990) 「友人関係の機能」 斎藤耕二・菊池章夫編 『ハンドブック社会化の心理学』 川島書店: 283-96.
松井豊 (1996) 「親離れから異性との親密な関係の成立まで」 斎藤誠一編 『人間関係の発達心理学 4 青年期の人間関係』 培風館: 19-54.
- 14) 主観的意味の多様度については, 松井の前掲論文 (1990, 1996) を参照して, ① + ② = 「好感・親近感」, ③ + ⑨ = 「尊敬・肯定的評価」, ④ + ⑤ = 「劣等感・競争意識」としてカテゴリーを再統合の上, MA 項目なので, 回答者の持つネットワークにこれらのカテゴリーが何個あてはまるかを検討した。
- 15) 社会化機能の多様度も, 主観的意味の多様度と同様に検討している。なお, ⑥ = 心理的安定化, ⑦ + ⑧ + ⑩ = 社会的スキル (学習), ⑪ = モデル機能としてカテゴリーを再統合している。
- 16) コミュニケーションスキルについては, 「成人用ソーシャルスキル自己評定尺度」 (以下の論文参照) を基に, 同尺度を構成する6つ

の因子にそれぞれあてはまる項目の中で、適宜因子負荷量の大きい項目を列挙して用いた。因子の種類としては、それぞれ①「関係開始」②「解説」③「主張性」④「感情統制」⑤「関係維持」⑥「記号化」である。

相川充・藤田正美 (2005) 「成人用ソーシャルスキル自己評定尺度の構成」『東京学芸大学紀要第1部門教育部門』56: 87-93.

- 17) 浅野智彦 (2011) 『趣味縁からはじまる社会参加』岩波書店.
- 18) 一部当てはまり、一部当てはまらない場合については、これ以降の検討では除いている。これは結果を明確に比較するためである。
- 19) 6つの因子とも固有値は1を上回っているということ、またこれらの因子によって全体の分散の約半分を説明しているということ、かつこれ以上の因子を抽出しても、その説明力はそれほど上がらないと思われること、以上の理由から抽出する因子数を6つとした。
- 20) 表6-1-1~6-2-2では、統計的検定結果について、差があった方向も加味して表記することになっている。すなわち、+++または--- = 0.1%水準で有意 ($\alpha < .001$), ++または-- = 1%水準で有意 ($\alpha < .010$), +または- = 5%水準で有意 ($\alpha < .050$), +※または-※ = 10%水準で有意 ($\alpha < .100$) である。
- 21) 浅野 (2011) 前掲書.
- 22) 中西新太郎 (2004) 『若者たちに何が起きているのか』花伝社.
- 23) 土井隆義 (2008) 『友だち地獄—「空気を読む」世代のサバイバル』筑摩書房.
辻泉 (2006) 「「自由市場化」する友人関係—友人関係の総合的アプローチに向けて」岩田考・羽瀧一代・菊池裕生・苫米地伸編 『若者たちのコミュニケーション・サバイバル—親密さのゆくえ』恒星社厚生閣: 17-29.
- 24) 大谷信介 (1995) 「<都市的状況>と友人ネットワーク」松本康編 『増殖するネットワーク』勁草書房: 131-73.
- 25) この点について、付記しておけば、パーソナル・

ネットワークに関する項目中で、回答者自身と他者との間での、共通する趣味については自由回答形式で尋ねており、これを用いた分析も行ったが、本論文と大きく違った結果は見られなかった。ただし、自由回答形式で尋ねたため、無回答の割合がやや多くなってしまったため、ここでは割愛することとした。

- 26) これについては、浅野 (2011) 前掲書で関連する分析が展開されており、ぜひ参照してほしい。

付記

本研究は、日本学術振興会 2006 ~ 2008 年度科学研究費補助金基盤研究 (B) 「若者の中間集团的諸活動における新しい市民的参加の形」(研究代表者 浅野智彦) の成果の一部である。